



校長室だより

月立小学校 校長 村上克弥
令和2年11月26日
☎55-2260 第6号

教育目標

ふるさとに誇りをもち
夢と希望に満ちた
心豊かでたくましい児童の育成



「コロナ禍」だからこそ「あいさつ」を大切に

秋も本格的にスタートしたかと思う間もなく、秋はすぐ終わり、小雪の頃となりました。本格的な冬はまだ先のことですが、自然界は着々と寒い冬の準備を始めています。

さて、「人は一人では生きられない。人の支えは、人の周りに幾重にもなってその人を取り囲んでいる。そして、その人の生活の変化に従って、その時々支えとなっている人も変化している。」といわれます。

社会が複雑になり「家庭に限らず、自分にとって支えとなってくれる人とのつながりをもつ」といったソーシャルサポートの考え方は、私たち現代社会に生きる人々にとって、ますます重要となってくると思います。その中で、人と人との出会い、そこには「あいさつ」があります。あいさつは、人間関係の基本です。家族へのあいさつ、友達同士のあいさつ、地域の顔見知りの方へのあいさつなど、大人も子どもも「あいさつ」を大切にしなければなりません。

私が子どもの頃、母は近所の家や親戚、町へ買い物に連れていってくれました。母は私が近所の人と出会う前、私に「あの人はこういう人だよ。顔を見てあいさつをするんだよ。」と言われ、あいさつをさせられました。また、母は私に親戚の家に着く前にもあらかじめあいさつの仕方を教え、私はその通りにあいさつをしました。それから、知っている人に会うと「あいさつをしなければ」という意識が働き、始めは緊張してあいさつをしていました。慣れるに従って、自然にあいさつができるようにもなりました。このように、母は子どもの私に、口うるさいくらい「あいさつ」を教えました。そのお陰でいろいろな大人の人にかわいがってもらいました。そのことで、母が私に教えてくれたのは、「あいさつの型(かた)」だけでなく、「人間関係の結び方」「相手との心の交流」だったのではないかと、思っています。

本校でも、あいさつを大切にしています。私は、朝に会う子どもに「今日もよく学校に来たね。一日頑張ろうね。」という気持ちで「おはようございます」のあいさつで迎え、帰りには、「一日よく頑張ったね。明日も学校で待っているよ。」という気持ちで「さようなら」のあいさつをします。

「コロナ禍」だからこそ進んであいさつできる子どもに育てたいと思っています。

月立フェスティバル

いつもなら、月立フェスティバル「チャレンジランキング」を6月に開催し、多くの保護者の方々や保育所の園児等を招待しているところですが、今年はコロナ禍ということで11月10日(火)に児童だけで行いました。4, 5, 6年生が3年生以下の子供たちを楽しませたいと考え計画を進めてきました。短い準備期間ではありましたがとても楽しいひとときを過ごすことができました。



今年の運動会も子供たちが計画し準備してきました。達成感、自己有用感、やりがい、感謝の気持ち、思いやりなど場面場面で多くのことを感じ取ることができ、とても充実した活動ができたと思います。今後の学校生活がとても楽しみです。